石炭火力発電 環境リスク

原発代替 17県で45基建設計画

東日本大震災後の原発稼働停止に伴い、比較的低コストで安定的に電力供給できる石炭火力発電所の建設計画が全国で相次いでいる。環境保護団体「気候ネットワーク」（京都市）の調べでは、全国17県で計45基（出力10万㌔㍗以上）の計画がある。兵庫は6基で、2番目に多い。だが、石炭火力発電は地球温暖化をもたらす二酸化炭素（CO_2）の排出量が大きく、あまりの計画ラッシュに政府の削減目標達成を危ぶむ声が出ている。

（3面に関連記事）

同ネットによると、5月現在、出力10万㌔㍗以上の石炭火力発電所は少なくとも全国26道府県に計85基ある。内訳は、福島11▽北海道10▽愛知8▽愛媛8▽沖縄6▽兵庫5―などだ。

建設が計画される45基は、福島7▽千葉5▽秋田4―など。兵庫では、神戸製鋼所神戸製鉄所（神戸市灘区）2基の増設（計130万㌔㍗）、電源開発高砂火力発電所（高砂市）2基の建て替え増強（計120万㌔㍗）、関西電力赤穂発電所（赤穂市）2基の改造（計120万㌔㍗）が計画される。

兵庫は6基 CO_2排出 高止まり

石炭火力発電のCO_2排出量は、石油の1・24倍、液化天然ガス（LNG）の2・29倍とされる。最新型でも、石油より多く、LNG最新型の倍以上だ。原子力、水力、風力、太陽光はCO_2を排出しない。

政府はCO_2など温室効果ガス削減の長期目標として「2050年に80％減」を掲げるが、新たに建設が計画される45基（総出力量2328万㌔㍗）の年間のCO_2推定排出量は、50年の目標総排出枠の半分以上を占める。

7日にドイツで始まった先進7カ国（G7）首脳会議（サミット）でも、温室効果ガス削減に向けた国際的な取り組みが重要議題になっている。

同ネットは「発電所は30～40年間稼働し、その間、CO_2排出量が高止まりすることになる。石炭火力発電所の建設を抑え、電源構成を風力や太陽光中心に変えていかなければ、目標達成は厳しくなる」と指摘する。

環境省は石炭火力発電所新設に際して「最良の技術の採用」を求めるなどして排出量の抑制を図るが、現在の石炭火力発電所の建設計画ラッシュに「目標達成上の懸念がある」としている。

（森本尚樹）

都道府県別 石炭火力発電所建設計画

二酸化炭素と地球温暖化 二酸化炭素（CO_2）やオゾン、メタンなどの温室効果ガスが地表から放射された赤外線の一部を吸収することで、地球の平均気温が上昇する。温暖化が進むと、南極などの氷が溶けて海面が上昇するほか、世界各地で干ばつや豪雨など極端な気象が増えると指摘されている。年末にパリで開かれる国連の温暖化対策会議（COP21）で、新たな国際枠組みが決まる。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

---

① 環境保護団体「気候ネットワーク」によると、5月現在、出力10万キロワット以上の石炭火力発電所は、全国に何基ありますか。

（　　　）基

② その団体の調べでは、今後の石炭火力発電所（出力10万キロワット以上）の建設は、全国で何基計画されていますか。

（　　　）基

③ このように石炭火力発電所の建設計画が進んでいるのはなぜでしょう？次の□に適切な言葉を入れなさい。

比較的□□□□□□□□
□□□□□□□□から

④ この記事を読んだ感想を書きましょう。

（　　　　　　　　　　）

名　前　【　　　　　　　　　　】

NIEワークシート／中学校～高校